

札幌市藻岩山(53

1)北斜面にかつて、札幌スキー場という名の施設があった。終戦直後の1946年に、進駐軍の米兵向けに建設、国内初のスキーリフトが稼働し、国体などでも使われた。しかし、天然林保全のため、59年を最後に公式には使用禁止となり、今や幻のスキー場。日本のスキー史に名を残した貴重な史跡を、現地で明示するよう求める動きが出ている。

(編集委員 黒川伸一)

藻岩山麓から、慈恵会病院前登山コースを歩き出して約20分、登山道はコンクリートの塊が点在した場所。たどり着く、標高約2200m。登山者の休憩場所になっている地点だ。

このコンクリート群はリフト跡。リフトを動かした原動機と木製の降り場の土台、滑車を支えたアンカーロックなどです。誇るべき歴史を史跡として後世に伝えたい。藻岩山とスキーの歴史の伝承を続ける藻岩レールと会の会長、原田廣記さん(76)は力を込める。原田さんは今月、札幌市に日本で初めてのリフト跡を示す看板の設置を求めた。



47年8月発行の土木学会誌に、「新設札幌スキー場に就て」と題し、全容が紹介されている。計画図によると、山麓に第一ス

藻岩山北斜面 国内初のリフト

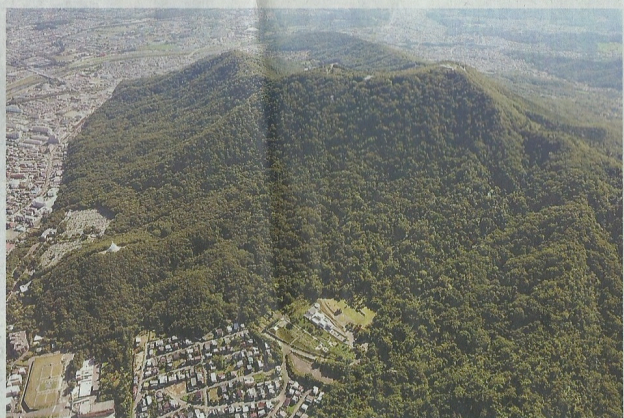
札幌スキー場 後世に

進駐軍用に建設、国体や宮様大会も

キートウ(リフト)と、山の全長計2キロの2コース(山頂に第二キートウ、他にトボガン(木製



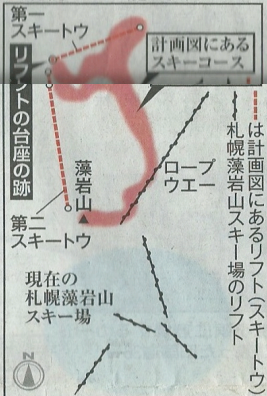
標高約2200m、藻岩山登山道脇にあるコンクリート群を前に、史跡としての意義を訴える藻岩レールと会の原田会長



藻岩山北斜面では、「札幌スキー場」があった痕跡はなかなか見えない。現在の札幌藻岩山スキー場は反対側に位置している。9月28日、本社へから、富茂樹撮影

天然林保全で禁止

「札幌スキー場」の位置



設計と監督を担った道の担当者は、後に道知事になる故宮垣内尚弘さん。後年に、突貫工事で間に合わせたことを述懐している。

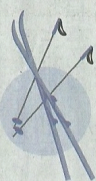
「(46年秋に)一切を「グリスマ」までに終えることを、米軍から命ぜられたが、私はこの仕事の内容から言って無理と考え、上司を通じてその竣工を多少延期するよう申し出たが、拒否され(以下略)」「(北海道通信社刊の「道路と私」)

計画図のリフトの基のうち、第二キートウは実際に建設されたかは不明だ。第一キートウは、納入した安全策道(滋賀県)の社史やパンフで「国内初のスキーリフト」として紹介されている。国内リフト製造

「史跡」市に看板要請の声

を先導してきた同社は「納入先は北海道進駐軍特別サード工務部の記録が残っている」「(業務部)としている」。

北大へ52年に入学したフロスキーヤーの三浦雄一郎さん(80)は回顧する。「大学1、2年生のころ、このスキー場で米兵にスキーを教える手伝いをしました。第一キートウには、炭鉱の石炭運搬用を改良した原動機が使われていました。スキー場のロッジでは毎晩のようにパーティーがあり、こちらで楽しめ、行ける限りスキー場に通いました」。



54年秋、駐留米兵の大半が札幌を去った後、一般市民もこのスキー場を使い始めた。とみられる。藻岩レールと会の原田さんも大学生だった55年当時、リフトに乗ったという。

58年の国体、56、58、59年の宮様大会の競技会場として、このスキー場は「藻岩山北斜面」「藻岩山北斜面」の名で登場する。札幌でアルペン競技の運営に長く携わった河上三馬さん(86)は「斜度もあり素晴らしいコース。残っているのは札幌五輪でも使えたはず。しかし、当時の道などの行政側が、天然林保全を理



国内初のスキーリフト、「札幌スキー場」の搬送。乗っている2人は「高松宮・三笠宮殿下」と説明されている。安全策道の80周年記念誌から

由に「使用禁止」方針を打ち出し、この時期に南斜面で開かれた現在の札幌藻岩山スキー場の影響もあり、北斜面のスキー場は59年の宮様大会を最後に、表舞台から徐々に消えていく。一部市民の間ではその後もしばらくの間は「アメリカンスロープ」の名で親しまれ、滑りに来る人が少なくなったという。